

焼津市歴史民俗資料館

Yaizu City Museum of History and Folklore

Museum Letter



資料館だより

116号

高校生が

御城印作成に奮闘



市内3校の高校が作成

焼津市内には「花沢城」「石脇城」「小川城」「方ノ上城」「当目砦」の5つの城跡があります。

戦国時代これらの城は「今川」「武田」「徳川」といった有名な武将たちの争いの舞台となりました。その舞台となった城跡の「御城印」を今回「松薫学園焼津高等学校・書道部」「静岡県立焼津中央高等学校・書道部」「静岡県立清流館高等学校・芸術部」の生徒さんたちに作成してもらいました。

生徒さんたちが、感じた焼津の城跡を「書」というものでどう表現してくれたのでしょうか。

今回はそんな生徒さんたちの日常の部活動の様子や、作成にあたり、どのように感じ、また焼津の歴史や文化についてどう感じたのか、取材しました。





書道部

松薫学園 焼津高等学校



襖の取付は楽しい

何やらゴソゴソガサガサと音を立て、部室から勢いよく部員が出てきた。

「今掃除してたー!」

とゴミ袋を片手に笑顔で話しかけてきてくれた。部室に入ると見知った書道部の部員がみんなで、部室の掃除をしていた。

「今日は部室の片付けをしていたんです」

と部長の海老名るうさん。

「襖が閉まらな〜!」

と1年生が襖を頑張って元に戻す。現在の住宅は和室のある家が少ないためか、襖を取り付けるのに苦労していた。だが、困りながらもみんな、和気あいあいと楽しそうだ。



夢は〇〇城!

焼津高校の書道部さんとは何度も会ったことがあるが、毎回仲良く、おしゃべりをしながら、楽しそうである。

天真爛漫な彼女たちからはあのダイナミックな書道パフォーマンスを想像することができない。

取材中も書道パフォーマンスをしてもらったが、いつもの彼女たちとは思えない真剣な表情に圧倒され、取材を忘れ、見入ってしまった。

今回字を担当してくれたのは2年生の鈴木心渚さん。

今までは先輩たちが一度書いたことのあるお城の字を書いていたが、今回の『方ノ上城』は彼女たちが初めて書いた。

「注意した点は字のバランス。真っ



右：海老名 るう さん
左：鈴木 心渚 さん

直ぐ書くことです。」と力強く答えてくれた。

登城記念、年月日を書いた海老名るうさんは

「自分の地元のお城『田中城』の御城印を書いてみたい!」

とニンマリ。隣で聞いていた心渚さんは

「私は松本城!」

と夢は大きいことに越したことはない。

書いたのはこのお城!

方ノ上城

- ★今川義元が家督を争った(花倉の乱)の舞台となった山城。
- ★狼煙を上げて花倉城と連絡を取り合っていたとき、現在も地元住民により狼煙上げのイベントが行われている。





書道部

静岡県立

焼津中央高等学校



着飾らない素の自分を

買ってもらいたい

ちとにぎやかに、楽しいそうに紹介
をしてくれ、
「着飾らなくて素でいられる仲の良いメンバー」
と笑顔で答えてくれた。

城、登城記念・年月日の文字を書
いてくれた。
「家族が、御城印を集めている」
という生徒さんがいた。
「買ってもらいたい」
と嬉しそうに話してくれたが、
「けど、字は選ばれたくない。恥ず
かしい」
と苦笑した。
顧問の山内教諭は
「地域と関わりを持って生徒が表現
できる場、活躍できる場が持てたこ
とは本当にありがたいことだと思
いました」
と、母親のような温かい目で生徒さ
んの様子を見ながら答えてくれた。

創立61年を迎えた焼津中央高校。
書道部の部室を覗くと、机に向
かって黙々と生徒さんたちが字の練
習をしていた。
先生に促され、部室に入るとこち
らに気づき
「こんにちは！」
と元気に挨拶をしてくれた。

焼津中央高校の書道部は総勢13
名。半数以上の部員が先輩たちが
行っていた、書道パフォーマンスを
見て、入部したと答えた。
部長の鈴木陽菜さんに部員の紹介
をお願いすると、周りの生徒さんた



タブレットを片手に、デザイン案
を考えてくれていたのは、2年生唯
一の男子部員の増田悠希さん。
「御城印って言われてイメージがわ
かなくて、先生に聞いたりしました。
今回は、みんなが書いて、その中か
ら選抜するので、その文字にあった
デザインにしようかと」
と真剣な表情で答えてくれた。
焼津中央高校は2年生が「石脇

書いたのは、このお城！

石脇城

今川氏親（今川義元の父親）が
家督を争った際に北条早雲が在
城し、活躍した。

北条早雲はこの功績により伊
豆・関東方面へ進出し、戦国大
名北条氏の礎を築いた。



芸術部

静岡県立

清流館高等学校

御城印は、私が書く！

清流館高校の書道室に入ると床に敷かれた新聞に立ち姿で墨で勢よく、文字を書く。その姿に、圧倒された。書き終えると芸術部書道班指導顧問の横山教諭が朱色の墨で、修正を入れながら部員一人一人に指導していく。その様子を部員みんなで見守る。

「いつもはもつとガヤガヤわちゃわちゃなんです。今日は取材があるからみんな緊張してる感じ」と、芸術部書道班部長の河村りおんさんが笑顔で答えてくれた。

清流館高校芸術部は書道班と美術班にわかれている。書道班は1、2年生で19人。その大半が2年生だ。「御城印を書くにあたっては、全員で取り組み、その中からみんなを選びました」

今回その中からメインの「花沢

城」の文字が選ばれたのは2年生の高須遥菜さん。

「御城印？花沢城って何のこと？と思ったけど、『書く』のは好きだからやってみたい！書いてみたいな、とは思いました」

と、書道が好き！と言わんばかりに元気に答えてくれた。

2年生全員が声をそろえて、

「花沢城の『花』の字のバランスを取るが大変だった」と語った。

顧問の佐野教諭は

「生徒たちは自分が書いたものを、買っていただくものだから責任を持って真剣にやってくれたと思います」

と活動中の生徒の姿を見ながら普段の生徒さんたちの様子とは違った姿を感じ取っていたようだ。

『書』も日本の文化ですので、そう



いった、文化と関わりを持たせていただけるのは大変嬉しいことで、学生にとっても良い機会になったと思います」

と指導顧問の横山教諭も、いつもと違った姿勢で今回の御城印作成に向き合っていた生徒の姿を感じていたようだ。



右：河村りおんさん
左：高須遥菜さん

花沢城をイメージ

「自分が書いたもので、買ってもらえるかな、魅力を感じてもらえるかなと、不安な気持ちが多かったです」

と、真っ直ぐ前を見て答えてくれたのは、美術班1年生本杉心さん。

今回彼女は文字を引き立たせる絵を書いてくれた。

書いたのはこのお城!

花沢城

★今川氏が駿府の西の守りとして築いた山城。

★駿河に侵攻してきた武田信玄の軍を迎え撃って激戦地になった。



『花沢城』って聞いて、イメージしたのがコスモスだったんです。コスモスの花言葉『美しい・優美』が私の中でイメージする花沢城にぴったりで、家族にも相談しました。」と素朴な、でも一輪でも目を引くコスモスのような素敵な笑顔で答えてくれた。



もとうま こと さん



その他 市内のお城跡



小川城

- ★古来より陸海路の要衝の地だった小川に築かれた城。
- ★『鬼平犯科帳』の主人公長谷川平蔵の先祖である長谷川氏が城主だった。

当目砦

- ★武田水軍の拠点、持舟城（静岡市駿河区用宗）の出城とされたと考えられる。
- ★武田軍と徳川軍の激しい戦いの舞台となり、徳川家の重臣石川数正等が活躍した。



令和6年度 しずおか遺産認定記念特別展
 今川 文と武の源流
 第一巻 駿河参府の地 焼津
 10月20日(日)～2月2日(日)
 入館無料
 会期：令和6年10月20日(日)～令和7年2月2日(日)
 休館日：月曜日(ただし、祝日の場合は翌平日)・年末年始
 入場無料

今回高校生に作成していただいた御城印は焼津市歴史民俗資料館・焼津市観光協会等にて12月15日(日)より購入が可能です。

焼津市内の城跡に向いたあと、記念として御城印をお手に取っていただければと思います。

また焼津市歴史民俗資料館では、しずおか遺産認定記念特別展「今川文と武の源流 第2部 駿河要衝の地 焼津」を開催中です。

展示会では、今回、ご紹介した焼津の5つの城跡について、より詳しく解説しています。更に戦国時代、山西と呼ばれ、今川氏の拠点駿府を守る重要な土地だった焼津についても知ることができるようになっています。御城印購入の際には、ぜひ展示会もご覧ください。



【発行・問合せ】
 焼津市歴史民俗資料館
 〒425-0071
 静岡県焼津市三ヶ名 1550
 ☎ 054-629-6847



【表紙写真】
 石脇城跡(焼津市石脇下)